

## レッドカーランツの収穫時間が短縮できる省力的な樹形

近年、需要が高まっているレッドカーランツは、粗放的な栽培環境でも生育しますが、成木になると高さ 2m以上の藪状の樹形となり、過大な収穫労力が問題となっています。そこで、収穫時間が 3 割以上削減でき 100kg/a 以上の収量が得られる樹形を開発しました。

### ☆ 技術の概要

1. 樹形を 3 年生と 2 年生の主軸枝のみで構成し、主軸枝の本数を 6 本(3 年生の主軸枝 3 本、2 年生の主軸枝 3 本)に制限し、収穫時に 3 年生の主軸枝を切り離して収穫します(図 1)。
2. 収量は慣行樹形より劣りますが 100kg/a 以上得られます。果実 1kg の収穫時間については、慣行樹形に比べて 3 割以上短縮できます。収穫時間が短縮されたことで、省力樹形は慣行樹形と比べて経営規模の拡大が可能です(表 1)。
3. 枝齢 3 年までの枝の発芽率及び花芽着生割合に差はないですが、枝齢が 4 年以上になると発芽率及び花芽の着生が劣ります。また、果実の平均 1 房重及び平均 1 房着粒数は枝齢 2 年が枝齢 3 年以上に比べて優れます(表 2)。
4. 整枝・剪定方法の違いが果実の糖度及び酸度に及ぼす影響はみられません。

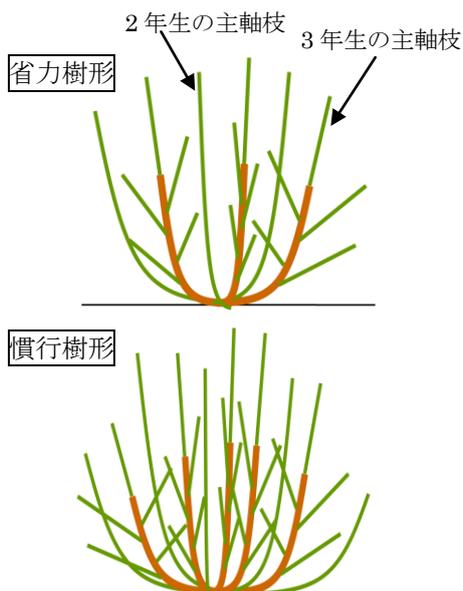


図 1 樹形のイメージ

表 1 樹形の違いが収量及び収穫時間に及ぼす影響

	1樹当たり 収量 (g)	1樹当たり 収穫時間 (分)	1a当たり 収量 (kg)	果実1kgの 収穫時間 (分)	栽培可能 面積 (a)
主軸枝6本区	2730	50.4	181.8	18.5	3.0
慣行区	3986	119.3	265.5	29.9	1.3

※栽培可能面積は収穫期間 14 日間、収穫労力 2 名、1 日の作業時間 6 時間として試算した。

表 2 枝齢別の発芽率、花芽の着生割合、平均 1 房重及び平均 1 房着粒数

枝齢	総芽数	発芽率 (%)	花芽の着生割合 (%)	平均1房重 (g)	平均1房 着粒数
2年	91	53	32	7.6 b <sup>y</sup>	16 b
3年	33	52	30	3.7 a	8 a
4年	12	0	0	2.5 a	6 a

### ☆ 活用面での留意点

1. 2012年の本試験の概要は以下の通りです。品種：「不明」6 年生 栽培環境：雨よけハウス 栽植間隔：樹間1m×列間1.5m (66.6 本/a 植え) 施肥：4 月3 日、CDU 果樹化成 (15-6-12) 1 樹あたり 100g を土壌表面に施用。かん水：タイマーによる自動かん水。収穫：樹全体の着色が 9 割程度となった 6 月 27 日に開始し 7 月 9 日に終了した。
2. 省力樹形の安定生産性の評価については現在、継続調査している。
3. 詳細については、宮城県農業・園芸総合研究所・園芸栽培部・果樹チーム (電話：022-383-8134 電子メール：[shibata-ma954@pref.miyagi.jp](mailto:shibata-ma954@pref.miyagi.jp)) にお問い合わせください。(果樹研究所 企画管理部 研究調整役 岩波 徹)